



マグの相方 施工要領

[2024.12 版]

施工前に必ずお読みください。

施工経験者の方も変更箇所があります。再度お読みの上ご確認ください。

「マグの相方」注意事項・施工要領

この施工要領は「マグの相方」に対するものであり、他社製品と共有するものではありません。この施工要領を利用した他社製品の施工において、施工後の錆などを含む全ての不具合に対して弊社では一切の責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

また、他社製品に対する施工要領を利用した「マグの相方」の施工においても、全ての不具合に対して弊社では一切の責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

施主様と内装工事業者様へ

⚠️ 「マグの相方」を貼った壁紙にマグネットを使用する際のご注意

「マグの相方」は鉄粉を含んだゴムシートが素材です。冷蔵庫等鉄製品と比較すると保持力は20~30%位とお考えください、**マグネットを選ばれる際は強力マグネット（ネオジウムマグネット）をご使用ください。**ホームセンターや文具専門店で販売されています。一般的なマグネット（フェライトマグネット）の場合コピー用紙A4チラシやメモ1枚位ですと1個~2個で充分ですが大きな用紙を貼る場合は複数のマグネットを使用してください。またパネルや額を壁に掲示をしたい場合はその裏面に粘着付きマグネットシート（当社やホームセンター等で販売されてます）を面積を大きく切り、貼って貰えば掲示することができます（粘着が弱い場合はボンドなどで補強して落ちないことを確認の上掲示してください）。但し高価な物や重量の有る物又は時計等精密機器の掲示はおやめください、滑り落ち破損したり機器を狂わす危険があります。

壁紙についてのご注意

施工後の不具合については保証いたしかねます

- ◎本製品は**黒色**です。**壁紙が薄くて白い物**は避けてください。マグの相方が黒く透ける場合があります。商品サンプルで試験施工して確認するか、**施主様や依頼主様には色うつりする可能性がある事を事前に確認**してください。
止むを得ず**色うつりする可能性がある壁紙**を使用する際には、「マグの相方」に「**パテ**」を薄く塗布することで**色うつりは緩和**されますが マグの相方と壁紙の間に塗膜を作るのでマグネットの保持力は低下します。
- ◎**汚れ防止壁紙・表面強化壁紙**などで多く見受けられる**フィルム・ラミネートタイプなどの通気の少ない壁紙は避けてください。**
※糊の水分の逃げ場がないことにより、**目スキ・剥がれ・フクレが発生する可能性が有ります。**
- ◎**凹凸の激しい壁紙や極端に厚みのある壁紙**はマグネットの保持力を低下させるので避けてください。
- ◎**オレフィン系シート、化粧タックシート等**は製造元・販売元でゴム製品は使用不可としている場合があります。施工後の不具合に対して弊社では一切の責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
- ◎壁紙ジョイント部は下地を切らないように**突き付け施工ないしネイビー13下敷テープ**または**PP下敷きテープ**を使用してください。目スキ防止の為**ジョイント補強テープ「和紙テープ」**等挿入してください。
- ◎壁紙の種類によっては接着しにくい物もありますので**試験施工**し確認された上で施工してください。

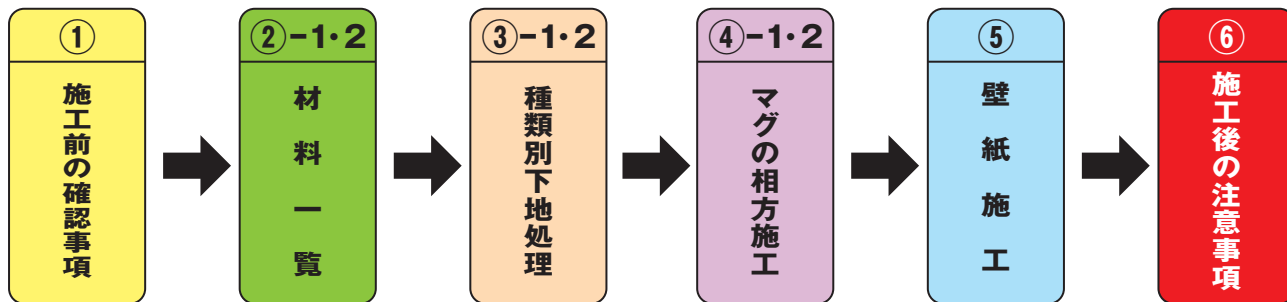
取扱上のご注意

- ◎施工に使用する製品に関しては、各製品の使用方法、注意事項を必ず読み、十分にご理解の頂いた上でご使用ください。
- ◎施工前に施工説明をよく読み、正しく施工してください。
- ◎「マグの相方」は**屋内専用**です。
- ◎火の近くなど、高温・多湿の場所へのご使用は避けてください。
- ◎ボード面にシールや濡れたものを貼らないでください。また、キズやへこみをつけないでください。
- ◎シンナーやベンジンのご使用は避けてください。
- ◎このシートはハサミやカッターで簡単に切れる為お子様の使用には充分お気をつけてください。
- ◎電子機器、医療機器、精密機器、磁気製品、時計等に粘着させないで下さい。粘着させるだけでは影響はありませんが、磁石部分をくっつけてご使用の際に相手側の機能を失う可能性があります。
- ◎本製品はマグネットではありません。

マグの相方施工要領

施工の流れごとの施工方法をよく読み、施工してください。

施工の流れ



①	施工前の確認事項、下記を必ずお読みください。
②-1・2	材料一覧を確認の上、製品が適合しているか確認してください。
③-1・2	種類別下地処理を確認の上で適正な下地処理を行ってください。
④-1・2	マグの相方施工をよく読み正しく施工してください。
⑤	壁紙施工をよく読み正しく施工してください。
⑥	必ずご確認ください。

① 施工前の確認事項

- ◎施工は**5℃以上**で行ってください。
- ◎本製品は**黒色**です。**壁紙が薄くて白い物は避けてください**。マグの相方が**黒く透ける**場合があります。
※止むを得ず**色うつりする可能性**がある壁紙を使用する際には、「パテ」を薄く塗布することによって緩和されますが塗膜ができる為マグネットの保持力は低下します。事前に確認下さい。
- ◎**汚れ防止壁紙・表面強化壁紙**などで多く見受けられる**フィルム・ラミネートタイプなどの通気の少ない壁紙は避けてください**。
※糊の水分の逃げ場がないことにより、**目スキ・剥がれ・フクレ**が発生する**可能性が有ります**。
- ◎**凹凸の激しい壁紙**や**極端に厚みのある壁紙**はマグネットの保持力を低下させるので避けてください。
- ◎**オレフィン系シート化粧タックシート等**は製造元・販売元でゴム製品は使用不可としている場合があります。事前にご確認ください。
- ◎下地の種類によっては施工できない場合や、下地調整に思いのほか時間や経費が掛かる場合もあります。
- ◎本製品はロール状になっているので、あらかじめ**巻きぐせを取ってください**。

◎「マグの相方」は0.5mmの厚さがあるため、貼った後段差が出ます。
仕上げ方法はあらかじめ施工主様や依頼主様と事前に打ち合わせしてください。

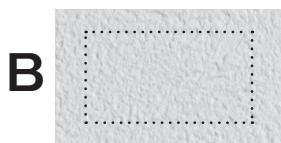
●施工方法による異なる仕上がり

- A: マグネットの接着面がわかるように、敢えてパテ処理をしない。
- B: 貼った場所がわからなくてもきれいな仕上げるため段差をパテで埋める。
- C: 段差を見切り材などで囲む



A パテなし仕上げ

「マグの相方」を貼った段差にパテをせず仕上げます。マグネットの被着面がわかる仕上げです。



B パテ仕上げ

「マグの相方」を貼った段差にパテでフラットに仕上げます。マグネットの被着面がわからなくなる仕上げです。



C パテなし仕上げ

マグの相方を貼ったまわりをジョイナーでかこむ仕上げです。掲示ボードとしてマグネットの被着面がハッキリわかる仕上げです。




②-1 材料一覧表

製品	種類別下地												
	石膏ボード	ケイカル板	ベニヤ	ラワン合板	コンパネ	コンクリ	モルタル	繊維壁	じゅらく	珪藻土	水性ペンキ塗装	油性ペンキ塗装	焼付塗装鉄板

●マグの相方 下地別適合表

	マグの相方 糊なし	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	マグの相方 糊付	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×











●マグの相方（糊なし）下地別接着剤

	マグの相方・マグフレズ用接着剤 マグフィニッシュ トキワ工業(株)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	EV-30 ウォールボンド工業(株)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	プラゾールSS ヤヨイ化学工業(株)	○													

※1 化粧合板につきましては種類別下地処理【非吸水下地】にてご確認ください。

※上記の適合表はあくまで「マグの相方」との適合を示すものであり、他社製品との適合を示すものではありません。

●下地別 不陸調整

		下地別 不陸調整													
下塗り		Vスリック 60/120 (株)ニッター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		エクセルII 60/120 ウォールボンド工業(株)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
上塗り		メリット 60/120 (株)ニッター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		ファースト 60/120 ウォールボンド工業(株)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
上下兼用		速硬パテ 30 （株）ニッター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		パラダイン 30M ウォールボンド工業(株)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
下・中塗り		タフラックP・60 （株）ニッター	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		耐パテ 60 ウォールボンド工業(株)	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
張り替え下地		貼替 SEED （株）ニッター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		水性増改用パテ ウォールボンド工業(株)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

※「タフラックP・60」は石膏ボード、合板及びケイカル板等の同種下地の目地処理や、これらの異種下地の組み合わせにおける目地処理も可能でクラックの発生が抑制されます。通常のパテに比べて接着力が非常に強力の為、作業感が従来品とは異なる可能性があります。

※「耐パテ60」は、石膏を主原料とした特殊樹脂を含有する粉末パテです。効果後の接着強度・微弾性に特徴があり、石膏ボードおよび異種下地等の目地処理でクラックの発生が抑制されます。通常の石膏パテに比べて接着強度が非常に強力な為、作業性や肉ヤセ等が異なる場合があります。

②-2 材料一覧表

製品	種類別下地												
	石膏ボード	ケイカル板	ベニヤ	ラワン合板	コンパネ	コンクリ	モルタル	繊維壁	じゅらく	珪藻土	水性ペンキ塗装	油性ペンキ塗装	焼付塗装鉄板

●マグの相方 下地別調整剤・補強材

	シーラーセットアップ ウォールボンド工業(株)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				※1
	390クリーン ウォールボンド工業(株)											○	○		
	コンタクトセメント No.1 ウォールボンド工業(株)													○	○
	パワーシーラー (株)ニッター	○	○	○	○	○	○	○	○	○					※1
	プライマー-A (株)ニッター											○	○	○	○
	シーアップ ヤヨイ化学工業(株)	○													

※1 化粧合板につきましては種類別下地処理【非吸水下地】にてご確認ください。

●壁紙用接着剤

	エコタック 100	トキワ工業(株)	マグの相方下処理 (捨て糊) 390クリーン
	ウォールボンド 100	ウォールボンド工業(株)	マグの相方下処理 (捨て糊) 390クリーン
	ウォールボンド 200	ウォールボンド工業(株)	マグの相方下処理 (捨て糊) 不 要

③-1 種類別下地処理

事前確認

- ①施工前に下地が確実に固定されているか確認してください。
- ②下地に油污れやサンダー処理後の粉などが残っている場合は取り除いてください。
- ③下記の該当する下地を確認して、それぞれの手順に沿って下地処理を行ってください。
 ※壁紙と下地が接着する面については使用される壁紙用接着剤に応じて、下地ごとの適宜な処理を行ってください。

石膏ボード下地(露出した下地)

- ①ボード継ぎ目や不陸部など、適宜必要に応じてパテ処理を行ってください。
- ②パテを塗布した部分が完全に乾燥後、下地全面にシーラーセットアップ(ウォールボンド工業)を**3倍希釈**、パワーシーラー(ニットー)を**2倍希釈**、シーアップ(ヤヨイ化学工業)を**4倍希釈**のいずれかで塗布してください。
- ③完全乾燥させる。
 ※マグの相方(のりなし)⇒下地処理後「マグフィニッシュ」または「ウォールボンドEV-30」または「プラゾールSS」にて施工
 ※マグの相方(のりつき)⇒下地処理後そのまま施工

貼り替え下地：クロスの裏紙が残っている場合

- ①既存の壁紙の裏紙の浮き具合を確認。水を霧吹きなどしてみて、浮きが激しい場合はすべて剥がしてください。
- ②裏紙がほぼしっかり残っている場合は、適宜必要部分にパテ処理(水性増改用パテ：ウォールボンド工業または貼替SEED：ニットー)を行う。
 ※裏紙をほとんど取り除いた場合 ⇒ 露出した下地の手順に従って処理してください。
- ③パテを塗布した部分が完全に乾燥後、下地全面にシーラーセットアップ(ウォールボンド工業)を**3倍希釈**、パワーシーラー(ニットー)を**2倍希釈**、シーアップ(ヤヨイ化学工業)を**4倍希釈**のいずれかで塗布してください。
- ④完全乾燥させる。
 ※マグの相方(のりなし)⇒下地処理後「マグフィニッシュ」または「ウォールボンドEV-30」または「プラゾールSS」にて施工
 ※マグの相方(のりつき)⇒下地処理後そのまま施工

ケイカル板・ベニヤ・ラワン合板下地

- ①下地全面にシーラーセットアップ(ウォールボンド工業)**3倍希釈**またはパワーシーラー(ニットー)**2倍希釈**し塗布する。
 ※ベニヤ・コンパネにおいて、シーラー塗布時に木目が大きく膨らむ部分があれば取り除いてください。
- ②下地に不陸がある場合は、乾燥後パテ処理を行う。
- ③パテを塗布した部分が完全に乾燥後、パテの上にシーラーセットアップを**3倍希釈**またはパワーシーラー**2倍希釈**し塗布する。
 ※吸い込みが激しい下地やアクが強そうな下地の場合は、パテ上だけでなく全面に塗布してください。
- ④完全乾燥させる。
 ※マグの相方(のりなし)⇒下地処理後「マグフィニッシュ」または「EV-30」にて施工
 ※マグの相方(のりつき)⇒不可(使用は避けてください)

コンパネ・コンクリ・モルタル下地

- ①下地全面にシーラーセットアップ(ウォールボンド工業)**3倍希釈**またはパワーシーラー(ニットー)**2倍希釈**し塗布する。
 ※ベニヤ・コンパネにおいて、シーラー塗布時に木目が大きく膨らむ部分があれば取り除いてください。
- ②下地に不陸がある場合は、乾燥後パテ処理を行う。
- ③パテを塗布した部分が完全に乾燥後、パテの上にシーラーセットアップを**3倍希釈**またはパワーシーラー**2倍希釈**し塗布する。
 ※吸い込みが激しい下地やアクが強そうな下地の場合は、パテ上だけでなく全面に塗布してください。
- ④完全乾燥させる。
 ※マグの相方(のりなし)⇒下地処理後「マグフィニッシュ」または「EV-30」にて施工
 ※マグの相方(のりつき)⇒不可(使用は避けてください)

③-2 種類別下地処理

繊維壁・じゅらく・珪藻土など塗り壁下地

- ①下地の状態の確認。軽く触って塗り材が落ちる場合や、濡らしてはがれやすい場合はできるだけ取り除く。
※塗り材を完全に落とした場合 ⇒ 露出した下地の手順に従って処理をする。
- ②塗り材を取り除くまでの必要がない場合、下地全面にシーラーセットアップ（ウォールボンド工業）**3倍希釈**または**パワーシーラー（ニッター）原液**で塗布する。
- ③下地に不陸がある場合は、乾燥後バテ処理を行う。
- ④バテを塗布した部分が完全に乾燥後、バテの上に**シーラーセットアップ3倍希釈**し塗布する。
※吸い込みが激しい下地やアクが強そうな下地の場合はバテ上だけでなく全面に塗布する。
- ⑤完全乾燥させる。
※**マグの相方（のりなし）⇒下地処理後「マグフィニッシュ」または「ウォールボンドEV-30」にて施工**
※**マグの相方（のりつき）⇒不可（使用は避けてください）**

ペンキ塗装された下地：水性ペンキ・油性ペンキ等

- ①下地の状態の確認。表面の汚れはふき取る。塗膜に浮き、めくれ、割れなどがある場合はワイヤーブラシやサンダーで塗装を取り除く。
- ②塗膜がしっかり残っている場合、**390クリーン**（ウォールボンド工業）**原液～2割希釈**または**プライマーA**（ニッター）を**原液～1.2倍希釈**で全面に塗布する。
※塗膜をほとんど取り除いた場合 ⇒ 露出した下地の手順に従って処理する。
- ③下地に不陸がある場合は、乾燥後バテ処理を行う。
※このとき、**390クリーン**または**バテボンド**を多めに添加したバテを用いるか、そうでない場合は、バテを塗布した部分が完全に乾燥後、**シーラーセットアップ**を**3倍希釈**し塗布する。
- ④完全乾燥させてください。
※**マグの相方（のりなし）⇒下地処理後「マグフィニッシュ」または「ウォールボンドEV-30」にて施工**
※**マグの相方（のりつき）⇒不可（使用は避けてください）**

焼付塗装鉄板（パーティション含む）化粧合板（プリント合板）等

表面に特殊加工がしていると、コンタクトセメントNo.1・プライマーAの付着が思わしくない場合があります。その場合は施工を避けてください。

- ※**化粧合板においてのみ、プリント化粧層をすべてサンダー処理などで削り取った場合ベニヤ下地と同様の処理で施工ができます。**
- ③-1種類別下地処理（ケイカル板・ベニヤ・ラワン合板下地）の手順に従って施工
- ①下地の状態の確認。表面の汚れはふき取る。
※焼付塗装鉄板の表面に**キズ・サビ**がある場合は先に**防錆処理**
 - ②塗膜がしっかり残っている場合、**コンタクトセメントNo.1**（ウォールボンド工業）を原液または**プライマーA**（ニッター）**原液～1.2倍希釈**で全面に塗布する。
※塗膜をほとんど取り除いた場合 ⇒ 露出した下地の手順に従って処理する。
 - ③下地に不陸がある場合は、乾燥後バテ処理を行う。
※このとき、**390クリーン**または**バテボンド**を多めに添加したバテを用いるか、そうでない場合は、バテを塗布した部分が完全に乾燥後、**シーラーセットアップ**を**3倍希釈**し塗布する。
 - ④完全乾燥させる。
※**マグの相方（のりなし）⇒下地処理後「マグフィニッシュ」または「ウォールボンドEV-30」にて施工**
※**マグの相方（のりつき）⇒不可（使用は避けてください）**

④-1 マグの相方施工(のり無し)

事前確認

- ① 5℃以上の環境で施工を行ってください。
- ② 種類別下地処理を正しく行ってから施工してください。
- ③ 巻きぐせは必ず取ってから施工してください。
- ④ マグの相方は入隅・出隅から30mm位離して隙間部分をパテ処理してください。
- ⑤ 製造上、光沢のある面無い面となりますが表裏はありません。

マグフィニッシュ・EV-30(ウォールボンド工業)使用の場合



でん粉糊にボンドを混合した糊なので調整が利きやすく、壁紙を貼るような感覚で施工ができます。難しいオープンタイプは不要、1巾ずつ塗布してください。

- ① 「マグフィニッシュ」または「EV-30」が施工する下地に適合しているか確認してください。
- ② 「マグの相方」を貼る際壁紙と同一面積ではなく「マグの相方」を小さくして貼ってください。
- ③ 商品はロール状になっているので巻きぐせを取ってから貼ってください。糊が材料の重さや巻きぐせに耐えられない場合は、周りを速乾ボンドや両面テープ、ピン等で仮止めしてください。
- ④ 「マグの相方」を貼る際は、必ず下地ごとの適正な下地処理を済ませてから「マグフィニッシュ」または「EV-30」原液を「下地側の貼る箇所」にパテベラ・櫛バケ・櫛目ゴテなどを用いて1巾分ずつ塗りつける。櫛目が付いた物を用いると均一に塗布がしやすいです。
- ⑤ ローラーで均一に塗りのばしてから「マグの相方」を貼ってください。目安の塗布量は200g/m²。
※「マグフィニッシュ」も「ウォールボンドEV-30」も向こう糊付け用(下地側に塗布する)接着剤なので、材料への直接塗布のスペースを確保する必要は有りません。
- ⑥ 上からスムサーや固めの撫で刷毛、ローラーなどを用いて丁寧にエア抜きしながら貼り付けてください。**ジョイントは突き付け施工**としてください。
- ⑦ 施工前の確認事項に記載している施工方法の異なる仕上げから⑧の**パテ仕上げ**を行う場合、下地との間の段差をパテで埋めるように塗布し、必要に応じて完全乾燥させて不陸調整をしてください。
適宜下塗りパテ・上塗りパテ、または上下兼用パテを使い分けて複数回処理することできれいな仕上がりになります。
※残った「マグフィニッシュ」は「EV-30」の用途(掲示板クロス等)に合わせてご使用していただけます。

プラゾールSS(ヤヨイ化学工業)使用の場合



マグの相方に対する施工ではボンド系の接着剤なので高度な技術を必要とします。塗りムラ、オープンタイムには細心の注意して下さい。

- ① 「プラゾールSS」が施工する下地に適合しているか確認してください。
- ② 「マグの相方」を貼る際壁紙と同一面積ではなく「マグの相方」を小さくして貼ってください。
- ③ 商品はロール状になっているので巻きぐせを取ってから貼ってください。糊が材料の重さや巻きぐせに耐えられない場合は、周りを速乾ボンドや両面テープ、ピン等で仮止めしてください。
- ④ 「マグの相方」を貼る際は、必ず下地ごとの適正な下地処理を済ませてから、「プラゾールSS」原液をローラーで均一に塗布し、5分ほど**オープンタイム**(屋内23℃)を取得した後貼ってください。目安の塗布量は100g/m²。

注意点

- ※オープンタイムは温度・湿度・直接日光が当たる場所・日陰などの環境によって変化します。適宜調整の上、粘着力が高まった状態で貼ってください。
- ※接着剤を塗布する際は均一になるように丁寧に塗布してください。均一でない場合オープンタイムを取っている間に薄い箇所は乾燥して本製品の裏面(接着側面)とは接着せずに、その箇所が施工後のフクレの原因となります。
- ※オープンタイムが短い場合、プラゾールSSから発生するガス・水蒸気の逃げ場が無くなり施工後フクレが発生します。
- ※オープンタイムが長い場合、プラゾールSSが乾燥してしまい粘着力は無くなります。

※「マグの相方」の接着面を#80程度のサンドペーパーで軽く目荒らしをすると接着強度が増します。

- ⑤ 上からスムサーや固めの撫で刷毛、ローラーなどを用いて 丁寧にエア抜きしながら貼り付ける。**ジョイントは突き付け施工**としてください。
- ⑥ 施工前の確認事項に記載している施工方法の異なる仕上げから⑧の**パテ仕上げ**を行う場合、下地との間の段差をパテで埋めるように塗布し、必要に応じて完全乾燥させて不陸調整をしてください。
適宜下塗りパテ・上塗りパテ、または上下兼用パテを使い分けて複数回処理することで よりきれいな仕上がりになります。

④-2 マグの相方施工(のり付)

事前確認

- ① 5℃以上の環境で施工を行ってください。
- ② 種類別下地処理を正しく行ってから施工してください。
- ③ 巻きぐせは必ず取ってから施工してください。施工後の剥がれの原因となります。
- ④ 温度によって作業感に違いがあります。スムーサーだけで感覚的に貼れたと判断しても必ずハンドローラーで十分に圧着させてください。
- ⑤ マグの相方は入隅・出隅から30mm位離して隙間部分をパテ処理してください。

- ① 「マグの相方」を貼る際は、必ず下地ごとの適正な下地処理を済ませてください。
- ② 商品はロール状になっているので必ず巻きぐせを取ってから貼ってください。
- ③ 「マグの相方」を貼る際壁紙と同一面積ではなく「マグの相方」を小さくして貼ってください。
- ④ 上からスムーサーを使い丁寧にエア抜きしながら貼り付けてください。
接着剤がなじむようにハンドローラーで圧着してください。ジョイントは突き付け施工としてください。

注意点

※夏場、冬場、室内温度の違いによって作業感に違いがあります。

- 温度が高い状態での施工は糊が軟らかくハンドローラーを使用しなくても簡単に貼れる場合がありますがその場合でも十分にハンドローラーで圧着してください。
- 温度が低い場合、巻きぐせが取りにくい場合がありますが必ず取ってから施工を行ってください。
- いずれも後の剥がれ・フクレの原因となります。

- ⑤ 施工前の確認事項に記載している施工方法の異なる仕上げから⑥の**パテ仕上げ**を行う場合、下地との間の段差をパテで埋めるように塗布し、必要に応じて完全乾燥させて不陸調整をしてください。
適宜下塗りパテ・上塗りパテ、または上下兼用パテを使い分けて複数回処理することでよりきれいな仕上がりになります。

⑤ 壁紙施工-1(ウォールボンド 200・ウォールボンド 100・ルーアマイルド)

事前確認

- ① 壁紙が薄くて白い物は、マグの相方が黒く透けないか事前に確認してください。
(使用を避けられない場合には施主様や依頼主様には色うつりの可能性がある事を事前に確認してください)
- ② フィルム・ラミネートタイプの通気性の少ない壁紙は避けてください。
(使用を避けられない場合には施主様や依頼主様には目スキ・ハガレ・フクレの可能性のある事を事前に確認してください)
- ③ 壁紙と下地が接着する面については使用される接着剤に応じて、下地ごとの適宜な処理を行ってください。

ウォールボンド 200 (ウォールボンド工業) 使用の場合



- ① 樹脂の配合量の多いウォールボンド200を使用すれば目荒らしや390クリーン処理をしなくても施工可能です。
※目荒らしをすればなお接着効果が期待できます。
- ② 通常の壁紙を施工する要領で「ウォールボンド200」を原液にて糊付け(塗布量: 120~130 g/m²)
※マグの相方に吸水・通気がほとんどないので、塗布量が多すぎると糊が乾かずフクレがでやすい。
さらにそれが貼ってある下地自体もシーラーかプライマー処理してあるので、塗布量は基本的に絞り気味でよい。
- ③ 養生袋やクロスボックスを用いてオープンタイムを取ってください。
※オープンタイムの長さは壁紙によって適宜調節をしてください。
- ④ 壁紙ジョイント部は下地を切らないように突き付け施工ないしネイビー13下敷テープ・PP下敷きテープを使用してください。目スキ防止の為ジョイント補強テープ「和紙テープ」等を挿入してください。
- ⑤ 撫で刷毛で丁寧に空気を抜きながら撫でつけ壁紙を貼り付ける。
※コーナー部分には「スーパージョイントX」(ウォールボンド工業)・「ジョイントコークA」(ヤヨイ化学工業)の使用をおすすめします。

エコタック100(トキワ工業)・ウォールボンド100 (ウォールボンド工業) 使用の場合



- ① 「マグの相方」の表面をサンドペーパーで必ず軽く目荒らしをし、それによって出た削り粉をしっかり拭き取ってください。
またはマグの相方表面に「パラダイン390クリーン」原液を刷毛かローラーにて均一に塗布し、十分に乾燥させてください。
- ② 通常の壁紙を施工する要領で「ウォールボンド100」を原液にて糊付け(塗布量: 120~130 g/m²)
※マグの相方に吸水・通気がほとんどないので、塗布量が多すぎると糊が乾かずフクレがでやすい。
さらにそれが貼ってある下地自体もシーラーかプライマー処理してあるので、塗布量は基本的に絞り気味でよい。
- ③ 養生袋やクロスボックスを用いてオープンタイムを取ってください。
※オープンタイムの長さは壁紙によって適宜調節をしてください。
- ④ 壁紙ジョイント部は下地を切らないように突き付け施工ないしネイビー13下敷テープ・PP下敷きテープを使用してください。目スキ防止の為ジョイント補強テープ「和紙テープ」等を挿入してください。
- ⑤ 撫で刷毛で丁寧に空気を抜きながら撫でつけ壁紙を貼り付ける。
※コーナー部分には「スーパージョイントX」(ウォールボンド工業)・「ジョイントコークA」(ヤヨイ化学工業)の使用をおすすめします。

その他壁紙用接着剤使用の場合



- ① 「マグの相方」に捨て糊をします。「パラダイン390クリーン」または「ブラゾールSS」原液を刷毛、ローラーにて均一に塗布し、十分に乾燥させてください。(塗布量: 100g/m²)
- ② 通常の壁紙を施工する要領で貼り付けます。
- ③ 養生袋やクロスボックスを用いてオープンタイムを取ってください。
※オープンタイムの長さは壁紙によって適宜調節をしてください。
- ④ 壁紙ジョイント部は下地を切らないように突き付け施工ないしネイビー13下敷テープ・PP下敷きテープを使用してください。目スキ防止の為ジョイント補強テープ「和紙テープ」等を挿入してください。
- ⑤ 撫で刷毛で丁寧に空気を抜きながら撫でつけ壁紙を貼り付ける。
※壁紙貼り付け前に「マグの相方」表面を#80程度のサンドペーパーで軽く目荒らしすると接着効果がまします。
※コーナー部分には「スーパージョイントX」(ウォールボンド工業)・「ジョイントコークA」(ヤヨイ化学工業)の使用をおすすめします。